

Tsumugi

INTERVIEW



開院から変わらない思いと これからの医療について

加賀市医療センター
病院長 小橋 一功

INTERVIEW

1 医療・介護環境について

高齢化に加えて、独居や老老介護が多いことが当市の特徴だと思います。入院を契機にADLが低下したり、継続した治療が必要となり在宅に戻れない方も多くおられます。今後もこの傾向はさらに高まるでしょう。介護施設は比較的充足しているように思いますが、慢性期の病床が不足していると感じます。

INTERVIEW

2 病院の現状

開院の目的の一つである「救急を断わらない」を実践できていると思います。すべての職員の努力により可能なことで象徴的であると思います。加賀市唯一の急性期病院として、今後も堅持し市民の期待に応えてまいりたいと思います。一方緊急で対応できない分野もあり、診療の充実を図る必要を感じています。

INTERVIEW

3 苦労したこと、うれしかったこと

やはり苦労したことは、医師の確保です。開院前から市長と二人三脚で各地、各大学等を訪問しました。開院後は職員それぞれが頑張ってくれて、私自身は苦労を感じていません。

うれしかったことは地元出身の医師が順次就職してくれたことです。研修医が来てくれたことと合わせて当医療センターが評価された証しだと思います。

また、全室個室の病床という思い切った構想で建てた病院ですが、目論見通りここまで院内感染0で推移していること、「ゆっくり静養できた」と感謝の言葉を患者さんからいただけたことに満足しています。

INTERVIEW

4 これからの医療提供

当面続くであろうwith コロナにあつて、新型コロナの治療を行いつつも救急病院、急性期病院として可能な限り通常の診療を堅持していくことが、市民の安心、安全を支えるものであり、期待されているものと考えています。

また加賀市が消滅しないために産科、小児科の診療を継続していくことが必要だと思います。

TOPICS 感染症対策 其の一 ~手を洗うのはいつ?~

ウイルスを家庭内に持ち込まないためには、手洗いが基本です!

WHOが推奨し医療機関・介護施設などで実施している手洗いのタイミングと家庭で必要な手洗いのタイミングをまとめました。

医療機関・介護施設など	家庭
病室に入る時	外出先から帰宅した時(家に入る時)
処置の前	調理前や食事前
汚染物に触れた後	トイレの後・掃除やゴミ出しの後
病室を出る時	職場・学校から帰る時
処置やケアで使用した物品に触れた後	手すりやつり革など多くの人が使用する物に触れた後
咳やくしゃみを手で押さえた後	



先の見えない新型コロナウイルス感染リスクと隣り合わせの日常。当院では繰り返し感染症対策の啓発を呼びかけています。

2020
7.30【Thu】

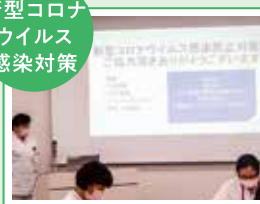
ケアマネージャーと外来看護師との意見交換会

超高齢化が急速に進み、在宅療養の継続がますます困難になる中、病院と介護の切れ目ない連携体制が課題となっている。

在宅療養継続に向けて、当院外来看護師と連携先のケアマネージャーにアンケート調査を行った。その結果、互いに在宅療養を支援していく上で困った場面を経験しており、相談体制づくりを望んでいることがわかった。そこで、今回、連携体制づくりの第1歩として「介護職と病院職員とが顔を合わせ、在宅療養で困難となっている現状を互いに知り、一緒に考える」ための意見交換会を開催した。

参加者 病院職員／23名・介護施設関係者／20名 計43名

新型コロナ
ウイルス
感染対策



▲参加者に新型コロナウイルス感染対策協力依頼



▲ソーシャルディスタンスを保つ

ICT（院内感染防止対策委員会）指導の下、新型コロナウイルス感染防止対策を講じ、サテライト会場を設けた開催となった。



◀介護職と看護師がグループで意見交換



総看護部長挨拶▶

意見交換会で、ケアマネージャーより「内服の管理が難しい方がいる」「どのように外来と連携をとればいいのかわからない」「外来への付き添う人がいない」など外来通院における意見があった。また、「急な退院となったため情報共有が遅れ十分な準備ができず後悔した」など、病棟との情報共有に関する意見も聞かれた。

外来看護師からは「普段の患者の様子を知りたい」「ケアマネとの連絡を取りたいがどのようにするとよいか分からない」など、連携を望む意見が聞かれ、現状の改善に向けても話し合った。

意見交換会後のアンケートでは、94%が「参加して良かった」、全員が「今後もこのような会があれば参加したい」と次回の参加に前向きだった。「普段言えないことが言えてよかった」「お互いの困っていることを知り、情報の共有がいかに大切がよくわかった」「もっと情報交換していいのだと思った」「施設も病院も大変だと分かった」などの意見もいただき、双方にとって大変有意義な時間であった。



▲在宅療養継続にむけたアンケート結果報告



▲白崎センター長も交えて



今回の意見交換会での現状の改善策を検討するとともに、このような機会を重ね、介護職と病院職員のお互いの顔の見える関係性の中で、在宅療養を継続的に支援する体制づくりを促進していきたい。

基本理念

「おもいやり」

私たちは、市民とともに、市民中心の医療を提供し、市民の健康を守ります

基本方針

1. 信頼される最適な医療を提供します
1. 救急搬送をことわらない体制を目指します
1. 将来を担う優れた医療人を育成します
1. 地域に根付いた医療を実践します

編集後記

コロナ禍で医療現場は混乱を極めています。医療の安全を保ち、地域医療の発展のための戦略的な取り組みも同時に進めていかなければなりません。今後とも地域に当院の取り組みを発信していきたいと思っております。

発行 加賀市医療センター 地域連携センターつむぎ

〒922-8522 石川県加賀市作見町36番地

TEL 0761-72-1188 (代表) TEL 0761-76-5133 (直通)

E-mail renkei@city.kaga.lg.jp <http://www.kagacityhp.jp>

